

福井大学留学生センターネットワーク誌

Network Magazine - International Student Center - University of Fukui



Vol.9

# 「こころねっと」と同窓会

## ●こころねっと

1970年以降福井大学で学んだ留学生は約1300名。在学250名、日本国内就職・進学者150名、母国で活躍中の先輩900名が内訳概数だ。

在学・在日・帰国留学生、日本人学生、教職員、地域社会・経済界、そして留学生出身国を含む国際社会とのネットワークを通して、何かをしたい。そのネットワーク構築・推進の役割を担って2001年11月ネットワーク誌「こころねっと」が創刊された。毎年2500部以上が印刷され、関係者・機関に送配布されている。

## ●福井大学留学生同窓会

「こころねっと」創刊号に同窓会登録用紙を同封して呼びかけた福井大学留学生同窓会は2003年11月文部省(当時)から特別配分予算を得て、各国代表13名を招聘し、設立大会(91名参加)を経て正式に発足した。現在、北京、上海、西安、杭州、台湾、韓国、タイ、マレーシア、インドネシア、ハンブルク、及び日本支部の11支部体制になっている。今後も南西アジア、南北アメリカ、中東、アフリカにも支部を展開していきたい。また、支部を組織するには帰国留学生の数が少ない国・地域においては連絡員という形でネットワークを展開したいと考えている。

## ●支部活動

各支部設立大会や年次総会には本学教職員や現地在住県関係者も出席し、産官学民との相互交流活動を展開中である。

2007年には上海支部「教育・経済交流ミッション」16名が来訪。シンポジウム「同窓会上海支部と福井県産官学民との交流ネットワーク構築に向けて」を開催し、各界と交流。県内企業との「商談会」や工場訪問を実施した。2008年には西安支部「母校訪問及び観光交流ミッション」7名が来訪し、福井県若狭町観光振興事業支援のための「若狭観光モニターツアー」に参加、2泊3日民宿に宿泊しながら、観光地を訪問した後、「若狭町観光振興いかにあるべきか」助言した。そして、2009年3月実施の福井大学工学部4年生10名の上海スプリングプログラムにおいては、上海支部会員(会社経営者多数)



が講義及び工場見学を通して 1 週間のインターンシップを支援する。尚、このインターンシップでは福井県上海事務所を通して、在上海福井県企業の経営者にもご協力をいただくことになっている。

## ●シンポジウムと同窓会世界大会

大学、留学生、地域社会を軸とした相互支援ネットワーク構築を目指し、2002 年以降計 5 回のシンポジウムを実施した。2008 年 9 月には留学生の就職支援のためのネットワーク造りにむけたシンポジウムを実施し、産官学民 150 名が参加し、意見を交換した。今後も種々のテーマで続けたい。

そして、今開催に向け企画準備しているのが、同窓会世界大会だ。同窓会 11 支部体制が確立し、各支部と県産官学民とのネットワークも構築されて来たが、今度は、海外支部相互、海外支部対日本支部、各支部対福井の産官学民、更には全支部参加の共同行事等、総合的なネットワーク事業構築を図りたい。そのために、各支部代表 11 名を招聘し、「シンポジウム」の形で、議論をしたい。と同時に、第一回「福井大学 International Home Coming Day」として、日本人卒業生にも呼びかけ、卒業及び在学生の交流を図りたい。「シンポジウム」には日本人卒業生及び在学生代表も参加してもらおう。そして、工場見学、商談会など、産官学民との交流事業も行う。「シンポジウム」のテーマには日本人学生も含む在学生の就職支援も入れたい。

同窓会組織は、資源に限りある地方の基幹大学にとって、大学の国際化及び国際交流推進の貴重なインフラと言える。そのインフラ構築のために、限りある財源を投入する価値は大きい。

## ● 第4回 留学生国際シンポジウム

「地震・津波等自然災害被災者支援のための国際ネットワーク構築に向けて」  
— スマトラ沖津波被災者支援活動と復興、その現状と課題 —

(2008.9.27、福井大学アカデミーホール、参加者 76 名)



開会の挨拶



シンポジウム

## ● 福井大学留学生同窓会西安支部企画

「母校訪問及び観光交流ミッション」来訪 (2008.10.24～28、7名)



熊川宿



若狭観光や如何に

## ● 福井大学留学生同窓会日本支部設立大会

(2008.11.23、福井大学総合研究棟会議室、参加者 21 名)



設立宣言後の記念写真



執行部 (会長、事務局長、副会長)



## ● 第 5 回 留学生国際シンポジウム

### 「留学生の就職・採用促進のための産官学民ネットワーク構築に向けて」 —現状と課題、及び経験の共有—

(2008.11.23、福井大学総合研究棟会議室、参加者 150 名)



開会の挨拶



パネラー及びコーディネータ



報告者（国内就職中卒業留学生）



参加者



報告者（県内企業関係者）

質疑応答



開会の挨拶



シンポジウム後の交流会

# 日本支部設立される



## 唐巍立

このメッセージは、お正月に書きましたので、まず、皆さん明けましておめでとうございます。

昨年（2008年）は歴史的に銘記される年だと思います。中国は様々な自然災害を乗り越え、北京オリンピックを大成功させました。また中国初の宇宙船外活動が実現でき、歴史的な一歩を踏み出しました。年の後半から、世界金融危機で各業界に危機・打撃を与え、世界経済は今年いっぱい底が見えないくらい落ち込んでいます。

この中で、嬉しいニュースを皆さんに知らせたいと思います。昨年11月23日に、福井大学留学生センターのお陰で、福井大学で「福井大学留学生同窓会日本支部」が成立されました、当日に21名の元留学生が参加されました。私はその場で支部の会長に選ばれ、光栄に思いながら、非常に重要な使命が与えられたと受け取っています。日本支部は、大きな家庭的な存在で、日本にいる元留学生たちに大きなプラットフォームを提供していると私が理解しています。これから日本にいる特徴を生かし、日本国内、海外との人・技術・ビジネスの交流を積極的に実行したいと思いますので、是非、皆さんと一緒に楽しい・明るい・実のある日本支部を作りましょう。

支部会員になる条件は、日本にいる福井大学の元留学生ということで、様々な国の方は参加可能です。また、卒業後日本にいる予定がある現役留学生の参加も大歓迎です。皆さんの参加をお待ちしております。







ここで、日本支部の執行部メンバーを皆さんに紹介したいと思います。

- |                |                           |                                    |
|----------------|---------------------------|------------------------------------|
| ● <b>会 長</b>   | 唐巍立                       | weili.tang@gba.co.jp               |
| ● <b>副 会 長</b> | (関東地区担当) 符茂島              | strboy2002@msn.com                 |
|                | (中部地区担当) 郭登極              | dengji_guo@hotmail.com             |
|                | (関西地区担当) Ehrhardt Anelise | anelisee@gmail.com                 |
|                | (中国四国九州担当) 劉琪             | su27k2003@yahoo.co.jp              |
|                | (福井担当) 張秀華                | sunxw_cn@yahoo.co.jp               |
| ● <b>事務局長</b>  | 井上マルシオ                    | kimcheemitsauerkraut@hotmail.co.jp |

会員の参加や提案があれば、是非執行部メンバーに連絡して頂ければと思います。

話が変わりますが、今回 100 年一度の金融危機とよくメディアが伝えましたが、危機の中に必ず大きなチャンスがあると考えてもいいでしょう。つまり、世の中に現行のシステムに合わないことが生じ、原点に修正される必要がありますが、新しいことの誕生も期待できると思います。つまり革新です。同様今回の支部設立によって、このような革新のチャンスを我々全員に与えられたので、ぜひ、このチャンスを実のある成果に結び付けたいと思います。

2009 年は、支部の皆さんにとって、創新の一年だと思います。是非、新しい発想と積極的な行動で有意義な 2009 年を過ごしましょう。

唐 巍立 2009 年 1 月 4 日

## 秋の思い出



**劉甜**（西安外国語大学交換留学生、  
教育地域科学部 行政社会コース、2006-2007）

この秋、私は福井大学留学生 OB のモニターツアーに参加した。若狭町を訪れた。観光客の姿がまばらであったのが、かえってうれしかった。

「秋きぬと目にはさやかに見えねども、風の音にぞ驚かれぬる」——そう、秋はそっとしのび寄って、不意に肩をたたき友に似ている。そのツアーの中一番印象深いのがやはり熊川宿と三方五湖だった。若狭町に着いて、右には太い杉の木が空高くそそり立っていた姿を見た。その根元は多くは、はだけていて、歴史の古さは知られた。そして、熊川宿に行った。その大陸文化の受け入れ口のひとつであった若狭地方の歴史や特徴を聞きながら、道を歩いていて、葉がサラサラと鳴る音に、ふと心ひかれることがあった。それは明るく、軽やかで、語りかけとも聞かれた。その頃、目の前にどこまでも青い空、豊富で流れの速い前川、飛んでいるバード、多様な形式の建ち並んでいる建物…。美しいものや動物に、やっと出会えた時、感動するのだった。

それからというもの、私たちは「レインボーライン」を通して、標高 397 メートルの山頂公園に登って三方五湖が眺めることができた。五つの湖は濃さの違う青色に見えて、何かとても不思議な感じはしていた。その五湖はさすが自然からのプレゼントだと思っていた。それから、レイククルーズに乗って、水月湖と菅湖に近くに移した。色鮮やかな森を湖畔の水面に映し出す水月湖を見て「まあ、きれい！」と、感にたえた声を発するのであるが、その美しさは実に見事だった。

今年の秋は有意義なツアーをした。そのツアーに参加してよかった。福井に帰ってきてよかった。今、私の心に残るのは、あの古めかしい明通寺そのものでもなく、あの面白い大敷網体験でもなく、低いゆるやかな丘陵性の山々を青い湖の周囲に巡らし、白々と絹糸のような雲が浮いていて、若狭町の友好の人々の笑顔の姿であった。





## すぐ謝る日本人



顧芸琳

「済みません」「ご免なさい」「失礼致しました」「伏してお詫び申し上げます」などはよく日本人の口に出すことである。つまり、日本人という民族は礼儀を重んずんでいると考えられている。日本語の「済みません」には、二つの意味がある。

一つは「I am so sorry, it is my fault. Please forgive me.」の意味である。そして、もう一つは「ちょっと、助けてください」のような言葉は道を聞く場合に使う。「済みませんが、大変ご迷惑をかけました」、「済みません、道を教えて下さい」、どちらも「済みません」ということである。しかし、意味の深さは違う。

時々、日本人たちの話には、「済みません」を挨拶のように口にするのが習慣になっている。謝るという行為が日本社会における人間関係の潤滑油の役割を果たしていることである。「実は、私は悪くない。間違っていないかもしれない。」「それには正当な理由があった。」「私に非はない。」と思っている時でも、日本人は相手に「済みません」を言う時もある。相手の立場を考え、相手の気持ちを傷つけないようにやわらかい表現で自分の意味を伝えることになって、いかにすばらしい効用をもたらす。電車が5分遅れても「心よりお詫びいたします」と、車内放送される。混雑の車箱に足を踏まれ、肩をつぶれ、相手から謝れたら、すぐ気持ちを慰めるようになることである。この時の「済みません」の本当の意味は「ゆずります。ゆずりますのでまた協力して仲良くいきましょう」である。「ゆずる」は「譲る」だが。「譲る」とは、狭い道で歩いていたら、前の人に、「請、お先にどうぞ、道を譲ります」を言い出すことである。会話も一つの道路と同じもののだと思われ、会話は一方通行の道ではなく、互いに聞くものだからである。それは、両方の気持ちが傷つかないような人間関係を進める潤滑油だと考える。日本人同士の時、お互いに相手に「済みません」を言い合う事が多いため、それで、「ゆずり合い」の精神が成り立つからだ。

「和」の精神は日本人の性格の一部になって、しぐさ、動作、言葉、人間関係の活動などのさまざまな形で現れている。他人に迷惑をかけたら、自分とも、他人とも非常に困らせる。一生懸命に、他人との摩擦を避けるように頑張っている。自分の罪とは思わなくても、迷惑を避けるため、「すみません」を言ってしまう人も大勢いる。なぜなら、他



人間関係をスムーズするように、摩擦を避け、他人の気持ちを慰めたり、誤解を避けたりして、謝るからである。

日本に留学した時に、ロシアの友だちは 私の夕飯時玄関にひょっこり来て、「すいません、すいません」と呼びかけた。この他家への訪問時に用いる挨拶語「すいません」が、「もしもし」の意の呼びかけ語となり、さらに、相手に受け入れてもらえ、相手の縄張りに加えてもらえる感謝の気持ちに転じ、「有難う」の意味としてのただの挨拶語「すいません」となっていく。お茶をいれてくれた人に「すいません」と言い、席を譲ってもらっても、「すいません」とお礼を言う。

しかし、現在のような、地球規模的時代には、日本人は注意して使う必要が出てきたと思われる。なぜなら、日本人が「済みません」という語を使い、「相手に譲る」という行為を果たす時、「日本人は自分の考えや信念に自信が無い、無責任だ」と取られる可能性も出てくるからだ。日本人の心の中に「自分の考えに対する自信や信念」をしっかりと持っているだろうか？「済みません」と言っている時の日本人の心の中では、相手に「ゆずること」をプレゼントしたいと思う心が非常に大きく、この思い「自信や信念に対する思い」よりも大きくなっているのである。世界的に観て、この考えは受け入れられにくいように思うが、日本人はそう思っているのである。



# The past Year, 2008



**Fang Bo**

How time flies! It has been a little more than two years when I came back from Japan. How are you, my dear friends, Ogenki desuka ?

I have been working in Bosch for two years, with much happy time and also many tough experiences. Anyhow I could overcome the obstacles and hold water here, which should be helpful for my future.

As a Sales engineer, I have chances to travel many other cities in China for business, in which the most interesting place is Zhou Kou of He'nan province. It's the north part of China, where the people put wheat as staple food, so that they don't eat rice but steam bread or noodle. I know that some of you really enjoy RAMEN (ラーメン) a lot, but for me it's terrible if I don't have rice to eat for one day. Unfortunately, my customer's factory is 2.5 hours' driving from the city, so nearby you can never find any restaurant where rice is available, and also it's impossible for me to drive 2.5 hours to the city just for food, because I went there for work and helping my customer not for fun. After two weeks' staying there, I could go back to my city, just feeling I'm so lucky that I survived.- 😊

In the past year, there was also one nice experience, which I would bear in my heart forever. It's one week's traveling in Thailand.

Traveling in such a nice country is wonderful, and also I have one of my most important friends there, who makes it much more special. I wanna express my appreciation to Aey, who picked me up at the airport of Bangkok. I just mentioned that I wanna go and travel in city of Pattaya on her car, so she took me directly to the highway, which can lead us to Pattaya city. Actually she just went to the wrong way and we had planed to go to downtown of Bangkok. So I had to stay in her car for 2 hours and go around the city of Bangkok before arrived at my hotel. If she didn't do this, I would thank her more 😊. Just kidding, I hope Aey will never read these sentences.



In the seven days, firstly OH san took me to Pattaya city, where there were nice beach and seafood. We just stayed in the beach and talked and took some nice photos, which is really perfect life. But it's a pity that just I can swim by myself.-☺ Also we went to some island near Rayong, as a fairyland. It's unbelievable for me that some place can be so beautiful. The day in farm was also very special for me, and finally we went around the prosperous place in Bangkok. If I have time I really want to stay there much much longer.

Today is the end of the year 2008, we should look back on the past year, and more importantly we should plan for the coming year. Are you ready ? My dear friends, I hope everything goes well for you. A ZA A ZA..Fighting !!

Yours' Frank 方波  
Dec 31, 2008



# Hello Friends



## Marcia Saito

2009.01.12 Nagano

I am a Japanese-Brazilian living in Japan for the 2nd time since 2000. Coming here was a dream that first came true when I was 25. At that time I had to do unqualified jobs, since I had almost no knowledge of the Japanese language. After a 4-year-stay I went back to my hometown, a city near Rio de Janeiro with another dream, I wanted to become an exchange student in Japan. In the year I went back other dreams came true.

First, I had the opportunity to visit Philadelphia to take an English teacher trainer course. The next year I studied hard and became a public school English teacher. Then I passed the Japanese Proficiency Exam level 3 after studying for 6 months. At that time I also met a wonderful guy and life took its course. Finally, I applied for a MEXT Overseas Teacher Training Program in the mid of 2000. By June I took the written exams, followed by an interview and all the documentation process. After getting the good news I had little time to prepare my spirit and depart for my journey. The most difficult thing was leaving the family and the one I loved behind.

I arrived in Japan in 10/2000 for my 6-month Intensive Japanese Course in Kanazawa University. I remember having a hard time during winter, since it had not snowed like that in fifteen years. After welcoming the New Year to a New Century in Kanazawa, I moved to Fukui in March. When spring came it gave me much hope to blossom again. This time I was introduced to Teaching English as a Foreign Language Research and fell in love with it. I was taught by Professors Oshita and Date from the English Department. I had wonderful colleagues. I could also introduce the work the Brazilian educator Paulo Freire to Professor Teraoka from the Education Department.

At that time my inner life was inhabited by Second Language Acquisition researchers' work, my heart was healing from the break up and the US went through the 9/11 terrorist attacks. The quality of relationships can be put

to fire when one side becomes an exchange student in a far away country. High achievers sacrifice much for reaching their goals. While their minds are flying high, their hearts may be plunging to the soil. There have been lots of pain and drama in those years, but today I choose to give voice to my gratitude to people like Nakashima-sensei, who witnessed me trying to keep my balance. Writing e-mails helped me keeping focused, no matter if people were too busy to reply.

I dedicate these words to those who supported me by just being there, for they were not judgmental; to those who let me fly from my nest and those who knew that the seeds of love sometimes have to die before they sprout robust again. Today I am writing to the past to say that I would walk the same path if I had a chance again. I am thankful for all things, for the challenges that made me aim higher, for gold and character do not come out under lukewarm temperatures. Above all God is faithful and keep us as work in progress.







## Brazil of the Rising Sun - Hundred years of Japanese Immigration

CEES - Escola Estadual de Educação Supletiva (Public School)

São José dos Campos - SP      Reported by Ms. Ordalia, Brazil

The exposition "Brazil of the Rising Sun - Hundred years of Japanese Immigration", promoted by CEES, paid tribute to the Hundred Years of Japanese Immigration and their descendants to Brazil. This Event was part of a project called "Viva Jap\_o", idea of the Secretary of Education.

Our main objective was that students and visitors could know a little more of the Japanese culture, the path of the Japanese immigrants which came to Brazil in search of hope and prosperity and our intention was also to show the influences of this culture in Brazil.

The Exposition showed:

- Through panels, the coming of the Japanese people to Brazil, showing the most relevant facts;
- Japanese culture aspects, such as writings, clothes and art;
- Japanese environment with elements of Japanese culture;
- Origami instructions.

This Exposition was organized by teachers and principal of CEES and supported by many others public entities, members of the Japanese community and the International Student Center University of Fukui.



# UAE (アラブ首長国連邦)



**FADY ALNAJJAR** (Palestine)

Fady6922445@yahoo.com

(2nd year PHD, System Design Engineering)

UAE (アラブ首長国連邦) はアブダビ、ドバイ、シャルジャ、アジマン、ウム・アル・カイワイン、フジャイラ、ラス・アル・ハイマという 7 つの首長国から成る連邦国家です。1971 年英国撤収後、確立されました。面積は 82,880km<sup>2</sup> (北海道とほぼ同じ) 人口約 500 万人、首都はアブダビ、公用語はアラビア語ですが英語が広く使われています。国教はイスラム教で外国人を中心にキリスト教やヒンドゥー教も信仰されています。通貨はディルハム (Dh)、フィルス (Fils)、1Dh = 100Fils 日本円で 300 円くらいです。



## ● UAE の天気

気温は 5 月～ 11 月頃は暑い日が続き、平均 30～40℃。最高気温が 48℃を超えることもあります。11 月～4 月は平均 20～25℃と過ごしやすく、夜は 10℃前後まで下がる場合があります。

ラス・アル・ハイマの山では雪が降ることもあります。



## ● 短いインフォメシ

ドバイやアブダビ、シャル

ジャなどが古くから中東における交通の要所として発達しており、この 3 都市は第二次世界大戦後の航空網の発達に併せてその地位を高いものとしています。また、近代的な高速道路がこれらの都市間を結んでいるほか海運も盛んに行われています。GDP の約 40% が石油と天然ガスで占められ、日本がその最大の輸出先となっています。アルミや繊維の輸出も好調で、近年は産業の多角化を進め、石油などの天然資源の掘削に対す



る経済依存度を低め、中東における金融と流通、観光の一大拠点となることを目標にしています。1981年にドバイに設立されたジュベル・アリ・フリーゾーンには外国企業への優遇制度があり、近年進出が急増し物流拠点となっています。また7つ星ホテルのブルジュ・アル・アラブやパーム・アイランドと呼ばれる人工島群が作られるなど急速に開発が進み、世界中の人々が観光に訪れています。



## ● ドバイのエンターテイメント

UAE最大の都市ドバイは、比較的小さな街で道路が整備されているので、市内の主な観光スポットを簡単に見て回ることができます。主な見どころは、ドバイ・クリーク、スークや昔ながらの市場、ダウ船造船所、シェイク・サイード邸、らくだのレース、デザート・サファリ、サンド・スキー、ヘリテージ&ダイビング・ビレッジ、ドバイ博物館、ジュメイラ・モスク、ゴルフコースなどです。エミレーツ・ショッピングモールでは室内スキー場があり、一年中スキーやスノーボードを楽しむことができます。現在建設中のブルジュ・ドバイは地上162階、尖塔高818m、軒高643.3mで完成すれば世界で一番高いビルになります。今年中に完成予定です。



皆さん、UAEへ是非お越しください。



# 私の日本語の勉強



## Hermanto

2005年4月に関西空港に到着して、まだ興味深い私もあまり日本語を話せなかった。インドネシア語はアルファベットが基本で、ひらがな、カタカナと漢字は初めてだった。

文法と基礎は日本語学校で学んだが、なんか物足りない気がした。なぜかという、留学生寮に住んでいるからあまり日本語を使う機会がなかった。主に英語でみんなに話しかけた。また、テレビをつけるたびにバラエティ番組とかトークショーの中で何が面白い、なぜみんな笑ったかがずっと気になった。

そして、ちょっと話せるようになったところで、新たな勉強方法を思いついた。子どもの時からインドネシアでブームとなった日本のアニメや漫画に日本語で挑戦しようと思った。初めはあまり話しのスピードに追いつけなかったが、少しずつ慣れてきた。そのおかげで、普通の会話ぐらいの聞き取りがなんとかできるようになった。それから、アニメだけでなく、日本のドラマや映画にも挑戦した。

しかし、受動的な受けることだけじゃ日本語をうまく話せないと考えて、バイトを始めた。特に、日本語学校に通ったときに、先生以外にはあまり日本人と接触することがなかったの、バイトは日本語を上達できる唯一の方法だと思っていた。言語を学ぶのは周知の通り、先生から教えてもらうのも重要だけど、一番大切なのは自ら勇気を出して話すことだと改めて感じられた。たとえ恥ずかしいながら、間違ってもいいから、少しずつ上手になれると自信を持てばいい。“失敗は成功の元”



# Chinese Dishes



**张乃伊** (China)

工学部材料开发交换留学生

Chinese dishes are very famous all over the world for their delicious taste, good smelling and beautiful color. Dishes from different regions have their own characteristics because of native culture. In the north of China, most people live chiefly on wheat, noodle or steamed bread. However, rice is mainly eaten in the south of China. The main eight famous Chinese cuisines are Shandong, Sichuan, Guangdong, Fujian, Jiangsu, Zhejiang, Hunan, Anhui Cuisine. China is a land of decorum with 5,000 years of civilization, so traditional festivals have a profound impact on the diet. I am pleased to share a traditional food with you. A pyramid-shaped mass of glutinous rice wrapped in leaves which is called Zongzi. We always eat it on the Dragon Boat Festival because of a poet Qu Yuan. Now let me show you in details. Let's do it together.

Cooking time: 30 minutes

One Zongzi composition: special leaf : 1 piece

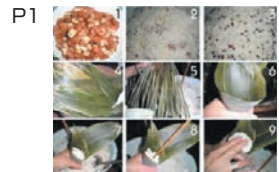
Rice : 100---150g; red bean : 30g,

soya sauce, line: 1

Steps:

prepare all the materials, mixture the rice and red beans.

1. Fold the leaf as a funnel, as P1:6.
2. put rice and pork in it, as P1:7,8,9
3. fold it as P2:2,3,4,5.
4. Tie it tightly with the line.
5. Cook it in the water.



# HINDI



**Vijay Narayan Tiwari**  
(India 2006-currently)

HINDI (हिन्दी) also known as Devnagiri, is the official language of India along with English. Hindi is a language that is spoken by about 500 million people in world and even more people understand it. It is one of the official language of the countries like Mauritius, Trinidad and Tobago, Fiji and Maldives. Hindi is a completely phonetic language meaning that it is written exactly as it is spoken. Apart from "standard hindi" there are many local dialects of hindi like haryanavi, bhojpuri, budelkhandi, awadhi etc.



There are 13 vowels and 39 consonants. Hindi has three cases for nouns. The Direct case is used for nouns not followed by any postpositions, typically for the subject case. The Oblique case is used for any nouns that is followed by a postposition. Adjectives modifying nouns in the oblique case will inflect that same way. Some nouns have a separate vocative case. Words and sentences are written from left to write.

In Hindi, there are two genders for nouns. All male human beings and male animals (and those animals and plants that are perceived to be masculine) are masculine. All female human beings and female animals (and those animals and plants that are perceived to be feminine) are feminine. Things, inanimate articles and abstract nouns are also either masculine or feminine according to convention. Hindi is a subject-object-verb language, meaning that verbs usually fall at the end of the sentence rather than before the object (as in English) .

Now, let me also give a brief introduction about basic conversation in hindi. Though hindi is an extremely informal language, people usually say ***aur kaise ho*** (equivalent to hello or konichiwa) . This Phrase can be used any time of the day. Usually ***aap*** is added to show respect if the speaker intends to.





Thank you (Arigato gozaimasu) is usually expressed as (*dhanyavaad or shukriya*) though in recent times English counterpart (thank you) is more commonly used. In hindi we usually don't say bye bye meaning there is always a possibility of meeting again so instead we usually use *phir milte hain* (meaning see you again) .

Some other commonly used phrases and greetings are as follows:

Greetings - *Mubarak ho*

Happy New Year - *Nav varsh ki shubh kamanayein*

Good morning - *Shubh prabhat, Su prabhat*

Good evening - *Shubh sandhya*

Good night - *Shubh ratri*

Take care - *Apna khayal rakhna*

I miss you / I remember you a lot - *Mujhe tum bahut yaad aate ho.*



Thank you! (or should I say *Dhanyavaad*)

# My First Japanese Friend



**Gilbert Ca-alam Galagate** (Philippines)

“Your tutor is your friend, your confidante”

- いわの・しんや

Convinced by the encouragement of my friends who had the chance to study here in Japan as teacher scholars, I applied for the same scholarship just to try my luck. “Being a biology teacher, you have the bigger chance of being accepted”、 my friends encouraged me. After the rigid screening tests, both written and verbal, conducted by the Japan Embassy in my country, Gotcha! I made it. I was blessed to be one of the successful hopefuls.

Amidst the good news and greetings of congratulations from my family and friends due to favorable result, mixed emotions sank in my hypothalamus. It was a feeling of extreme joy, of thanksgiving, of high self-esteem, of uncertainty. To have the feeling of joy, of gratitude, and of great sense of self esteem following the good news especially after going through tough times is but natural. But to have the feeling of uncertainty might sound unusual. But why felt uncertain ?

Born and live for 34 years in my hometown Roxas City, Philippines, I can only speak two languages, Filipino and English, aside from our dialect ‘Hiligaynon’ . “How will I communicate with Japanese people because I do not know how to speak nihongo ?” , the first question I asked myself. What if ?..But how ?? ?...So many questions. No certain answer.

Despite the many questions and doubts bothering my mind, I still decided to grab the opportunity.

October 1, 2008, the day I first landed on the Land of the Rising Sun. The following day, I had my first adventure by traveling alone from Osaka to Fukui where my school, Fukui University, is located. Upon my arrival, Hayashi san and Tomomi san told me the things that I need to have and to do prior to attending my classes. “Gilbert san you need to have your hanko (personal seal) for future business transactions” , they told me. “You need to apply for



your personal bank account to Fukui Bank and to JP Bank”, they added. “By the way, before I forget you need to apply for an Alien Registration Card”, Hayashi san reminded. The questions and worries I had way back in my country sat in again. How will I do it ??? ...

I was in the middle of my imagination thinking on how to do it myself, when a young Japanese man, in his twenties, came. “Excuse me Gilbert san, He is Sasaki san”, Hayashi san introduced. “From this day onward he will help you in all your transactions”, She smilingly added. Oh! “That`s great !”, I exclaimed. “Welcome to Fukui, Japan!”, “Are you now ready for our adventure” ?, said Sasaki san.

The first thing we bought was my hanko. He chose it for me. Then we applied for my bank account to Fukui and JP Banks. We went to the city hall for my Alien Registration Card, to the International Student Center for my school identification card, and even to Softbank store for my mobile phone. He toured me around the university, helping me locate the school library, the international student lounge, the Education building, the canteen, the health center. He taught me how to use the ATM Machines in the school, both of Fukui and JP bank. Sasaki san, whom I now called Keiji after knowing his first name, indeed is a great help to me. From time to time, he accompanies me to the hospital when I have my medical check up. He unknowingly teaches me nihongo by conversing with me using the language when I tried to talk with him in nihongo. I learned a lot about Japanese culture and practices from him which help me easily get accustomed to the life here in Japan.

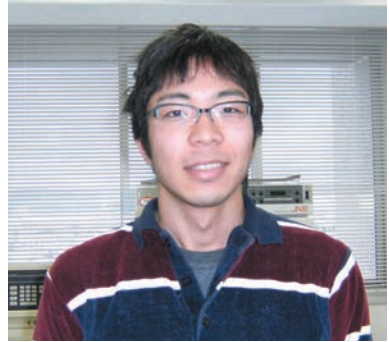
Keiji is very helpful, kind, friendly, smart, and humble. His fluency of the English language is a great help. Through it, we communicate effectively thus everything comes in its proper perspective. I feel so blessed to have known him. When I need to do something or to go somewhere it seems so easy and is under control for he is always there to help me go through it. He made my adjustment period in my new environment easy to bear with. It was not as tough as I expected it to be. Aside from the other Filipino teacher scholars, Alven and Berma, and my fellow Filipinos living here in Fukui, Keiji is making



my stay here truly wonderful.

“My dear foreign students, your tutor is your friend, your confidante”, Iwano san said during the orientation program for the new foreign students. Yes! I agree with him. Keiji Sasaki san, my tutor, is my friend, my confidante. In fact Keiji is my first Japanese Friend.

Iwano san was right. What he said during the orientation is true to me. Is it also true to you? I hope so...



# Songkran Festival



## Parinya Punpongsonon

(Bangkok, Thailand)

The New Year is an event that happens when a culture celebrates the end of one year and the beginning of the next year. Cultures that measure yearly calendars all have New Year celebrations. However in any countries it has other new year such as Chinese new year or Songkran day.

The Thai New Year (In Thai language called as สงกรานต์ Song-kran, and from Sanskrit Language called as sankranti; In Chinese characters: 潑水節) is celebrated every year from April 13 to April 15. It coincides with the New Year of many Dai calendars (possibly also Thai lunar calendar) in South and Southeast Asia.

The date of the festival was originally set by astrological calculation, but it is now we fixed on April 13 to April 15. Songkran Festival falls in the hottest time of the year in Thailand (temperatures can rise to over 100°F or 40°C on some days) , at the end of the summer season.



The most obvious celebration of Songkran is the throwing of water. People roam on the streets with containers of water or water guns, or post themselves at the side of roads with a garden hose and drench each other and passersby. This, however, was not always the main activity of this festival. Songkran was traditionally a time to visit and pay respects to elders, including family members, friends and neighbors.

Besides the throwing of water, people celebrating Songkran may also go to a wat (Buddhist monastery, Temple) to pray and



present food to monks. They may also cleanse Buddha images from household shrines as well as Buddha images at monasteries by gently pouring water mixed with a Thai fragrance over them. It is believed that doing this will bring good luck and prosperity for the New Year.

In many cities, such as Chiang Mai, the Buddha images from all of the city's important monasteries are paraded through the streets so that people can toss water at them, ritually 'bathing' the images, as they pass by on ornately decorated floats. In northern Thailand, people may carry handfuls of sand to their neighborhood monastery in order to recompense the dirt that they have carried away on their feet during the rest of the year. The sand is then sculpted into stupa-shaped piles and decorated with colorful flags.



The throwing of water originated as a way to pay respect to people, by gently pouring a small amount of austral water on other people's hands or over a shoulder as a sign of respect. Among young people the holiday evolved to include dousing strangers with water to relieve the heat, since April is the

hottest month in Thailand. This has further evolved into water fights and splashing water over people riding in vehicles.

Nowadays, the emphasis is on fun and water-throwing rather than on the festival's spiritual and religious aspects, which sometimes prompts complaints from traditionalists. In recent years there have been calls to moderate the festival to lessen the many alcohol-related road accidents as well as injuries attributed to extreme behavior such as water being thrown in the faces of traveling motorcyclists.

The water is meant as a symbol of washing all of the bad away and is sometimes filled with fragrant herbs.

However, the main thing







of Songkran day and Songkran festival is made for represent about Thai New Year and represented to the New Year is an event that happens when a culture celebrates the end of one year and the beginning of the next year. Cultures that measure yearly calendars all have New Year celebrations.

Although the traditional calendar of Thailand like most of Southeast Asia utilizes a lunisolar calendar, the date of the new year was calculated on a purely solar basis. The term Songkran comes from Sanskrit "Sankranta" and means "a move or change" in this case the move of the sun into the Aries zodiac. Originally this happened at the vernal equinox, but, as the Thai astrology did not observe precession, the date moved from March to April.



The traditional greeting on Songkran festival is " สวัสดีปีใหม่ " (sa-wat-dee pi mai), basically "Happy New Year". But most people use " สุขสันต์วันสงกรานต์ " (suk-san wan songkran) - meaning "Happy Songkran Day" - since "pi mai" is more often linked with the first of January. "Suksan" is also used as an attribute for other days such as "Valentine's Day" (" สุขสันต์วันแห่งความรัก", suk-san wan haeng khwam rak) = Happy Valentine's Day.

Songkran is also celebrated in Laos (called pi mai lao), Cambodia (called Chaul Chnam Thmey, Cambodian New Year), Myanmar (called Thingyan), and by the Dai people in Yunnan, China too.

At last, "We know the images of you see as Thailand before it not be positive. But we know the peoples who around of the world know Thailand is better. So, we sure we can recall Thailand the land of smile. Now too many problems are being process and we sure to passers-by it. So, please come back to visited Thailand again!"  
Speech of Prime Minister Abhisit Vejjajiva's the Prime Minister of Thailand.



# 福井大学の留学生について



## 今井 祐子

(教育地域科学部 人間文化講座)

私が福井大学に来てはや5年が経とうとしていますが、幸いにも私が担当している授業には、毎年必ず数名の留学生が受講してくれています。これまでに私の授業には、中国、インドネシア、マレーシア、ドイツ、アメリカ合衆国からの留学生が受講してくれましたが、常に私は、留学生のみなさんから刺激を受けていると言えます。というのも、留学生の皆さんの授業に臨む真剣さが、授業をしていて実感できるからです。フランス語の授業でも、日本人学生よりも留学生の方が真面目に授業を聞いていますし、試験をしても留学生の方が格段に成績がよいのです（日本人学生の皆さん、頑張りましょう）。わざわざ母国を離れて外国に学びに来ているのだから、勉学に対する彼らの熱意が高いのは当然なのかもしれませんが、一方でこの事実、日本人学生の熱意の低さを示しているのかもしれない。

また、私にとって嬉しいことは、授業で知り合いになった留学生とキャンパス内ですれ違った時には、必ずといってよいほど彼らの方から私に挨拶をしてくれることです。挨拶は子供でもできることではありますが、日本では最近、この当たり前のことができない人が少なくありません。そういう私も、特に意識している場合は別として、普段すれ違う人に対しては、会釈程度のごく簡単な挨拶、あるいは小声で囁くような最低限の挨拶しかしていませんし、こちらから元氣澆刺と挨拶をしようものなら、とにかく目立ってしまう、という気兼ねもあります。大都會のパリは別として、フランスの田舎に行くと、見知らぬ人でも会う度にいつも決まって元氣に「Bonjour! (おはよう、こんにちは)」と言って挨拶してくれるのですが、その声は、芸術的に上手く焼きあがった香ばしいフランスパンよりも、コーヒーとミルクの配分が絶妙な割合で融合された美味しいカフェオレよりも、私にとっては「うまし国フランス」を感じさせてくれるのです。しかし、現代の日本でそのような場に出会うことは、残念ながらあまりないでしょう。しかし、これが福井大学の留学生となるとちょっと違うのです。彼らは、とにかく積極的に笑顔で挨拶をしてくれるのです。そしてそれが、私に活力を与えてくれるのです。



このように私にとって福井大学の留学生は、刺激、活力というものを与えてくれる人たちです。反対に彼らから見て私が、そのような存在であるのかどうかは分かりませんが、しかし、できることならばそうありたいですし、そうならなければいけないと思っています。今後ともこの福井大学で、留学生との交流を通して、お互いに刺激や活力を与え合えれば幸いです。



## Interviews by Mr. Andre Mahindra, Indonesia



Can you tell me your name, major, country ?

- My name is Marie Werner, I'm an exchange student from Germany, I'm 22 years old, and my major is Japanese.

Why did you choose Japanese as your major ? And why did you come to Japan ?

- Because I'm a half, my mother is Japanese and I wanted to know more about the Japanese language, about culture and the people from my mothers country. In other words, since I was born in Germany and grew up there, I wanted to know more about my "other half" . And I also wanted to make friends with Japanese people.

Why did you choose Fukui ?

- University of Fukui is one of the partner universities of University of Hamburg and I heard from those people who were here before, that we have to study hard, but after one year you'll have the feeling, that your Japanese has improved. I have friends who came to Japan to study Japanese but had lessons in English, and then I heard University of Fukui provides lessons only in Japanese so when I go back to Germany in the future I will hopefully have the feeling that I learned something.

What do you think of Fukui ?

- Fukui isn't as big as other cities and I can't do many things here. I have already visited Eiheiji and Toujinbou so now I am able to concentrate my time on studying and not doing other things.

What kind of lessons do you have in class ?

- I have Japanese grammar lessons, writing lessons, German-Japanese translation, Japanese traditional industries, world music, and multi-cultural communication.

I heard in Germany people have potato as the staple food, so what do you think of Japanese rice ?

- Because my mother is a Japanese, we often eat Japanese food and Japanese rice, and I think Japanese rice is delicious.



What do you think of Japanese people ?

- Some are more open and outgoing than I thought and I think they're really nice and helpful, but I think some don't like to talk too much.

Which part of Japan have you ever visited ?

- I went to Mito in Ibaraki Pref., Fukuoka, Hiroshima with its Miyajima, Kyoto and Kanazawa

Which places do you want to visit in the near future ?

- I want to go to Osaka, Tokyo and Kyoto and Fukuoka once again.

What do you think of the Japanese language ?

- I think the basic Japanese is not so difficult, but the 'Keigo' form is difficult, and also the Kanji.

What is your hobby ?

- I like reading (English, German, and nowadays Japanese), playing the piano, and after coming to Fukui I started to play koto.



Do you listen to Japanese songs ?

- Just a little. I went to a Japanese concert and since then I like the Japanese singer Gackt (Gakuto) .

Do you miss people from your country sometimes? And what do you do to overcome it ?

- Yes, sometimes I miss my family, friends, and my boyfriend. I send emails and do some chats.

How do you spend your daily time ?

- Studying, doing homework, and sometimes going to karaoke, watching movies, or learning koto and of course reading.

What language do you speak ?

- I speak German, English, Japanese, and a tiny little bit French.

After you finish your course, do you plan to come back to Japan ?

- Yes, maybe for traveling, to see more about the country.

What would you like to experience whilst you're in Japan ?

- Hanami, see some fireworks festival, go climb the Mt. Fuji, make many Japanese friends, and eat delicious Japanese food.

What would you like to say to everyone who will read this magazine ?

- I hope I will have a nice time while staying in Fukui, make many friends, and for everyone, have fun and study hard.

Tell me your name, major, country.

- Anna Mieszkowska, 22. I live in Poland, Warsaw. I study chemical engineering.

Why did you choose Japan ?

- I thought it would be a great experience for me. I wanted to get to know Japanese culture and see the differences between Japan and Poland.

Why did you choose Fukui ?

- My department at University in Warsaw have an agreement with the University of Fukui.

What do you think of Japan and Fukui ?

- Japan is an interesting country and has lots of touristic places to see. Polish culture differs from Japanese culture so it's really fascinating for me to meet Japanese people and exchange the experience with them. Also I like very much Japanese food.

Fukui is located in a nice area, it's close to the sea and mountains so you can enjoy swimming in the summer and skiing in the winter. But I wish it didn't rain so much in Fukui.

What do you think of Japanese people ?

- They're kind, helpful. Even if we have sometimes communication problems caused by the language barrier, they always try to help.

Which part of Japan have you visited ?

- I've visited Kyoto, Kobe, and some cities in Fukui Pref., such as Eiheiji, Katsuyama, Echizen, and Mikuni.







What place do you plan to visit in Japan ?

- I'd like to go to Okinawa island, I heard it's beautiful. I'd also like to visit Hokkaido, Tokyo, Nara, Mt. Fuji, and Hiroshima.

What is your hobby ?

- Sailing, skiing, listening to the music, watching movies.

What about food ? You like Japanese food ?

- Of course;) . My favourites are sushi, miso soup, and takoyaki.

What do you think of Japanese rice ?

- I think it's more delicious than Polish rice and the way of preparing is a little different, for example in my country we add salt into the water first and then cook it. Besides we don't eat so much rice in Poland.

What language do you speak except Polish ?

- English, a little of German, and now I'm learning Japanese.

What do you think of Japanese language ?

- It can be sometimes difficult for me, because the grammar rules are totally different than in Polish language. Nevertheless, it's interesting experience to learn Japanese.

How do you spend your time ?

- During weekdays I attend classes. In my free time I meet friends, make a bicycle trip, do shopping, go to Japanese restaurants or watch movies.

When will you go back to your country ?

- In September 2009.

Do you have any plan to come back to Japan ?

- I don't know. I will make plans for my future after my graduation in Poland.

What would you like to experience while you are still in Japan ?

- I'd like to go to a Sumo game, take part in tea ceremony, go to Disneyland, go to fireworks festival, see Sakura, and wear kimono.

Finally, what would you like to say to everyone who will read this magazine ?

- Enjoy your time, try to make a lot of friends and have fun.

## As local citizen what is your opinion about international student in Fukui



### **Mai Hayakawa**

(Staff, Fukui Prefecture Office)

International student in Fukui that I have ever met all are very nice and kind.

And I think they are very sociable!

They try to actively talk to me and my friends in Japanese every time. So I'm impressed !

When I hang out with them a lot, I always think "I have to study English more and more like them!" It is pretty Stimulation.

I learned from them that the most important way to improve languages is to speak !

I want to make friends with a lot of international students from now on, too.  
Thank you, Mai Hayakawa.



## My Life and Experiences in Fukui (Memorable Memories)



### **Berma Patalinghug Ritual**

Philippines

Teacher Training Program

(October, 2007-March, 2009)

October 02, 2007 I arrived here in Japan full of anticipation and excitement. It was my first time to be out of the country. I have knowledge about Japan through reading and nothing more. But, deep in my mind, I will be fine.

On our way here in Fukui, as I gazed through the window of the train, I was amazed on how they manage to keep the rice field or farm amongst the infrastructures that surround it. But then, as the days passed by I had more and more interesting experiences. The University of Fukui professors, staffs and students made us feel welcome. They are always willing to lend a hand whenever we need them; they are patient enough to answer our queries even if we have language difficulty.

During my first 6 months here, we had an Intensive Japanese Language class with once a week Japanese Culture lesson in Ikebana, Japanese flower arrangement; haiku, a painting; calligraphy and playing of shamisen, a Japanese string musical instrument. At the end of the Japanese Language class, we presented a speech about the Philippine education system as well as our respected school where we are teaching. That first six months training was rigid but we really had fun. And that also started a friendship among my classmates from different countries.

The University of Fukui International Student Center and the University of Fukui International Student Association always organize activities for us to explore more the culture of Japan like the winter and summer trip and at the same time develop camaraderie among our fellow students.

Last August, I had the chance to experience one of the biggest events for foreign students here in Japan when I participated in the 21st Japan Tent in Ishikawa Prefecture wherein I had the opportunity to stay with two host



families, one in Wajima City and the other in Kanazawa City. This week long event enabled me to experience the daily life of a Japanese family and the town's culture and its wonderful nature. We also did different Japanese arts and crafts. Again, these kinds of activities bring people closer together and foster greater understanding of the cultural differences and similarities among different nations.

This fall semester is our last term here in Japan and we are busy preparing for our reports. Hopefully I can use or implement what I have learned here when I go back to the Philippines for the benefit of our students.

Indeed, my life here in Japan is one of the greatest experiences I have. People are nice and disciplined, the professors and staffs are effective and efficient, food is great, and the place is safe and clean. I am privileged to have the opportunity to study here and mingle not only with the Japanese but people from other countries as well. I gained not just knowledge that enriches my mind but also experiences that nourish my heart and soul.

Hope you enjoy your stay in Japan.



# 福井大学中国人留学生学友会の紹介

## ●日本語版

福井大学中国人留学生学友会は「全日本中国人留学人員友好聯誼会」に所属する留学生機構として、中国駐日本国大使館の指導及び監督のもとで運営しています。本会は「愛国、団結、友好、奉仕」を趣旨と、中国人留学生と日本及び世界諸国の友人との友好交流のために、福井大学に在籍している中国人留学生向けに勉強や生活において、様々な支援を提供することを目的と、広範な日本友好人士、華人華僑、研修生及び諸国友好人士を団結し、中華文化を発揚し、中日友誼を深めることを活動基準とする学生団体です。

学友会創立の十数年以来、中国駐日本大使館、大阪総領事館、日中友好団体（個人）と華人華僑社団（個人）などの各機構から多くの有益なご指導とご助言を頂き、中国人留学生と日本及び世界諸国の友人と様々な友好活動を行っており、日本及び世界諸国の友人と一緒に日中友好と世界平和のために貢献したいと思っています。

学友会執行委員会は高度的な熱情と真面目な態度で新たな年において様々な友好団体と協力し、多種多様な対外交流活動を展開して行こうと思っています。皆様のご支援とご参加を心よりお待ちしております。何卒宜しく御願申し上げます。

## ●中国語版

福井大学中国人留学生学友会は“全日本中国留学人員友好聯誼会”下屬の留學生組織，接受中國駐日本大使館的指導和監督。本組織以“愛國、團結、友好、奉獻”為宗旨，以促進中國留學生與日本及世界其他國家的團體和個人間的友好交流為目的，為福井大學在校中國留學生的學習、生活等方面提供服務、諮詢和指導。是一個以廣泛團結日本友好人士、華人華僑、研修生以及世界其他國家友好人士，發揚中華文化，加深中日友誼為活動基準的學生團體。

學友會創立數十年來，接受了來自中國駐日本大使館、大阪總領事館、中日友好團體（個人）和華人華僑社團（個人）等各機構的有益指導和教導。組織了福井大學的中國留學生同日本及世界其他國家友人進行各種形式的友好交流活動，並願與日本及世界其他國家友人一道為促進中日友好和世界和平貢獻自己的力量。

在在新的一年里學友會執行委員會將以高度的熱情和認真踏實的態度與各友好團體協作，開展多種多樣的對外交流活動。在此由衷地期待對各位的支持與參與。

## 2008年度福井大学中国人留学生学友会主要活動リスト

- 2008. 1 ● 就職説明会  
チベット児童へ服を寄贈
- 2008. 2 ● 春節の集い(市日中友協)  
日中友人春節交歓会(日中友協福井支部)  
福井県立大学留学生交歓会
- 2008. 3 ● 北陸三県国立大学交流会  
春季旅行  
卒業生送別パーティー
- 2008. 4 ● 春季新入生歓迎会  
中島先生の顧問任命式  
日中友人花見交流会  
長野聖火リレー応援団
- 2008. 5 ● 四川大地震募金  
学園祭  
福井市日中友好協会総会
- 2008. 6 ● 学園祭感謝会  
学友会上半期総括会  
足羽山紫陽花観賞散策交流会
- 2008. 7 ● 防犯ベルの供与
- 2008. 8 ● 三国花火大会
- 2008. 9 ● 秋季旅行  
秋季体育大会  
東京幹部育成訓練会  
第4回留学生シンポジウム
- 2008.10 ● 秋季新入生歓迎会  
北京風雷京劇団演出
- 2008.11 ● 第5回留学生就職シンポジウム
- 2008.12 ● 元旦夜会  
学友会通年総括会

※ 詳細は福井大学中国人留学生学友会ホームページをご覧ください。

<http://acsuf.zhan.cn.yahoo.com/>

# 留学生在学状況



(2007年10月1日現在)

	学部生			大学院生				研究生/特別聴講学生			合計
	教	医	工	教修	医博	工修	工博	教	医	工	
インド					2						2
バングラデシュ						1	7				8
ミャンマー				1				1			2
タイ							2			1	3
マレーシア			37			1	1				39
インドネシア			3				2	1			6
フィリピン					1			3			4
大韓民国							1			3	4
ラオス			1								1
カンボディ			1								1
ベトナム			8			1					9
モンゴル				1							1
中国	5		28	11	3	31	27	16		27	148
台湾							3				3
パキスタン										1	1
キューバ					1						1
コロンビア								1			1
ペルー								1			1
ギニア							1				1
ドイツ								4			4
フランス							1				1
ポーランド							1			1	2
キリギス					1						1
パレスチナ							1				1
シリア							1			1	2
合計	5	0	78	13	8	34	48	27	0	34	247
						82					
83			103				61				



## 地域社会との交流活動



日新小学校



啓蒙小学校



くりのみ児童館



西部保育園



武生高校



本郷公民館



インテ-ナシヨナルサカイ



福井国際交流協会

● 福井大学留学生同窓会日本支部 関東地区会合 (2009.01.24)



● 福井大学留学生同窓会日本支部 中部地区会合 (2009.03.01)



# 福井大学留学生会の活動



前期歓迎会



四川大地震募金



大学祭



サッカー大会



前期さようならパーティー



サマーキャンプ





サマーキャンプ



後期歓迎会



国際交流ラウンジ



忘年会



ビリヤード大会



スキー旅行

# 伝言板 MESSAGE BOARD



Isan, Thailand

## Meeting friends around the world

**Marcio Inoue** (井上 マルシオ) 卒業生 2008  
**Kohei Yamada** (山田 浩平) 物理工学専攻 M2

Last year (2008), we had opportunity to meet some former University of Fukui international students in their home countries.

In August during Obon holidays, we traveled around East and Southeast Asia and met 呂星顯 and his girlfriend in Taiwan; Aniwat Hasook and Thamma Thammasak in Thailand.

In December, we met 高旺必 (Ko Wang-Pil) and 全昶韓 (Jeon Chang-Han) in Busan; and 朴相烈 Park Sang-Yeol, 韓進旭 (Han Jin-Wook), 金明鎮 (Kim Myeong-Jin) and 朴載昶 (Park Jae-Chang) in Daegu, South Korea.



Taiwan

Meeting them after a long time was really great. We talked about the days they were in University of Fukui, about the trips they took around Japan, about our jobs and studies... we felt really happy when they said that they miss Fukui, the university and the friends they met there and specially that they intend to come again to Japan.



Taegu, Korea

Both trips were nice and wonderful for us. Better than visiting the traditional touristic spots, meeting and talking to our "old" friends was, a little bit nostalgic, but really memorable. 呂さん、アニワットさん、タマさん、高さん、全さん、朴相烈さん、韓さん、金さん、朴載昶：thanks for your kindness !



Busan, Korea

多謝、Kop khun krap.

!



**周瞳** (Zhou Tong, China)

福井大学の皆さん、お元気ですか。福井から離れてもう一年間を経ちましたが、福井での勉強や生活などは本当に幸せで懐かしかったです。その懐かしさをきっと一生忘れることはありません。皆さんのご指導で、交換留学生として無事な一年間の留学生生活を送ることができました。本当にありがとうございます。特に私たちを支えてくれた中島先生に感謝の気持ちを伝えたいと思います。福井はまるでふるさとのように私の心に存在しています。私は今年仙台の東北大学に進学しますが、またいつか絶対ふるさとに会いにゆくと信じています。

**許焱** (Xu Xiao, China)

皆さん、こんにちは！中国人の許と申します。206年10月からの一年間に福井大学で交換留学生として勉強していました。私は中国で杭州市の浙江大学にいましたが、それより前、私はなぜ浙江大学と福井大学とは毎年こんな留学プログラムがあるのかわかりませんでした。去年、彼女と杭州の西湖で遊んでいる時、いきなり、福井杭州交流公園というところが見つかりました。もとは、福井の永平寺と杭州の慈寺はずっと昔からも定期的に交流活動を行っていました。それは1800年前にも行っていたそうです！すごいでしょ？そして、1986年に正式に友好都市になり、その公園は1995年に建てられたのです。なので、この留学プログラムも友好都市の交流活動の一部かなと思っています。



私は去年東北大学に入学して、少なくとも二年間仙台にいます。仙台の松島は全国でも有名なところですから、皆さんよかったら、遊びにきてね～～私が案内します。



福井大学の皆さん こんにちは！張大霖 (Dalin ZHANG) です。Do you remember me ? Maybe you can't remember this name. OK, what about his name ? I am Darling~ ! HAHA How are you everyone ? I miss all of you so much. And I miss all things in University of Fukui. I wish I can go back to Fukui again this October for my doctor degree. I almost couldn't wait for that time. I am coming,

Fukui ~ !

### **Moe Si Khin** (Myanmar)

Now I am attending in the Sagaing Institute of Education for Master Degree of Education. The background of our University is Sagaing mountain ranges and Ayeyarwaddy River is flowing around it. Because of scenery, I miss Fukui through the academic year.



### **表紙デザイン Kokoroneto Designer Words**

#### **Senan Hafez** (Masayoshi)

We are all on a lifelong journey of discovery and building relationships. This design is come in line with the title of the magazine. The blue shining heart is the theme of love, intimacy and peace has become with wings to fly across the globe to connect to each other and this is the main idea of the design. The pinky wings are reflecting the wide range of energy and activity that the heart has. Dark background with white lines effects was chosen to add style of splendor to the design. Back of magazine the purple hydrangea (Ajisai) flower showing ones of the famous Fukui emblems. Finally, the design carries the Logo of Fukui University for the first time which is the place of “kokoroneto” birth.



## 編集後記

今回も多くの原稿をいただき、感謝に堪えない。今年度はSyiah Kuala 大学学生 10名教員 2名の来訪、西安支部ミッション来訪、9月と11月のシンポジウム開催、国内支部設立大会開催、そしてその後の関東地区会員会合、中部地区会員会合、近畿地区会員会合、等々ネットワークを推進する行事が目白押しであった。今後も皆様の協力を得ながら、ネットワークを構築したい。皆様のご助言ご意見をいただきたい。

- **編集長** 福井大学 留学生センター長 中川 英之
- **編集委員** Alnajjar Fady SK、Abdul Rahman Hafiz Abdul Ghani、  
Andre Mahindra、Berma Patalinghug Ritual、  
Gilbert C. Galagate、Hermanto、Mieszkowska Anna Ewa、  
Senan Hafez、陳偉、馮璐璐、梁士軒、卢凯、张乃伊、周梦瑶、中島 清

福井大学留学生センターニュース **「こころねっと」** 2009年春号  
2009年3月15日発行

発行 福井大学 留学生センター  
〒910-8507 福井市文京3丁目9番1号  
International Student Center, University of Fukui  
3-9-1, Bunkyo, Fukui 910-8509, Japan  
Tel.0776-27-8903 Fax.0776-27-8903  
E-mail: ukujima@u-fukui.ac.jp  
<http://ryugaku.isc.fukui-u.ac.jp/>

